



MATSUZAKI AYAKO | 松崎 綾子
Solo Exhibition | 木をみて森をおもう

人はどこでも豊かに生きられるという事を証明すること
原風景の中にごそ見出せる価値を表現すること

息が詰まりそうな街で必死に生きる若者
何かを求め何を求めているのかを探す子どもたち
街のエネルギーが抜けていくのをただ見ている事しかできない大人たち
抜けていくエネルギーを何とか押しとどめようとする大人たち



損なわれ続けながらも残るもの

降り積もる雪の白さの中に
人の営みが生々しく浮かび上がる

綺麗事だけでは生きられない事は
充分過ぎるほど知っているから
身近なものをきちんと見つけたい

個人の記録に過ぎないかもしれない
余所者の無責任だと言われたとしても
都心から移り住んだ人間の目に移るリアル

ここでは手に入らないものもある
しかし、ここでしかできない事がある
ここでしか見られないものもある
いま、求めている風景が目の前において
それが為す術もなく崩れようとしている

「今」の「ここ」を見つめる事は広い世界そのものを見つめる事とつながっている